

令和5年新春講演会並びに賀詞交歓会

総務委員会

令和5年1月20日（金）、仙台ガーデンパレスにて一般社団法人東北地質調査業協会、一般社団法人斜面防災対策技術協会東北支部、一般社団法人全国さく井協会東北支部の3協会合同による恒例の新春講演会及び賀詞交歓会が開催されました。

新春講演会では、東北地質調査業協会の奥山清春理事長の挨拶の後、夏の甲子園において東北地方悲願である優勝旗の「白河関越え」を果たされた仙台育英高校硬式野球部監督の須江航氏をお迎えし、「2022夏それまでとこれから 高校野球から見た人材育成」と題してご講演を頂きました。講演では8つのテーマに沿ったお話を述べられました。



講演される須江監督

8つのテーマとは「①東北勢の初優勝の運と…」、「②青春って密なので…の真意」、「③成果を出すために必要なこと勝利至上主義ではなく勝利主義」、「④結局のところ勝負事は…短所と長所の関係性」、「⑤挫折との向き合い方。人生は敗者復活戦、1度かえる」、「⑥伝わる言葉。コミュニケーションについて」、「⑦優勝が与えたもの、失ったもの、そしてこれから」、「⑧失敗から学ぶ一問一答」でした。

テーマ①について、実は全試合「第1試合」を引き当て「運」の強さを感じた

との事。第1試合なので開始時間が決まっており起床時間も一定し、試合後は遅くとも3時半には宿舎に戻れたというのです。これは選手の休憩時間も取れ、かつ次戦の分析も十分できる時間なのだそうです。しかし監督は「運は偶然来たのではなく、目の前の事を一つ一つこなす努力で引き寄せたと。」感じていたそうです。運は努力しない者には味方しないという事を再認識致しました。

テーマ②の「青春って密なので…」は須江監督が優勝直後インタビューで語った名言で全国の方々を感動させた、この名言は優勝の記憶と共に皆様の心に刻まれているのではないのでしょうか。実はこの言葉を語るつもりは全くなかったそうです。この思いのきっかけは3年前コロナ禍で甲子園大会が中止になった理由を「大人達」が説明する際、「文章ばかりの説明で“言葉”で説明していない。」と感じていたそうです。大人の対応や想像力の欠如に対して、憤りを感じ、「大人が、そして大人として子供達に密な思いをさせていないな…」との思いがあり続けたからこそ、あの場で語られた言葉でした。

テーマ③では須江監督は「勝利主義」を実践しているとの事。言い換えるならば「成功・成果主義」。「どうすれば勝てる」→「計画を立てる」→「実践する」→「失敗したら、また戻る」を繰り返しており、これは「PDCA」サイクルを回しているのと変わらないそうです。須江監督の「社会に出る前に必要な考えを経験させたい。」思いから実践しているとの事でした。

テーマ④は「短所と長所の関係性について」において、短所については、例えば「あの人こんなに良い長所があるのに、あの短所のお陰でダメだよね。」という話しを例にし「短所に対して丁寧に対処

していないと長所は伸ばせない」と語られました。また長所では、例えば「プロ野球選手のプロたる所以はたくさんホームランを打つ選手がプロではなく、“求められている以上の事を安定して供給できる人”」なのだそうです。まさに当調査業協会の目指す長所＝プロではないでしょうか。そして長所を伸ばすために短所＝失敗など丁寧に対処していく良い短所と長所の関係性が、更なる発展に繋がるのではないかと気付かされました。

テーマ⑤では挫折との向き合い方として、失敗しても、1度大きく変える取り組みをさせているとの事でした。テーマ⑥のコミュニケーションについて、「高校生は昔と比べ自立している。」と述べられました。今の「Z世代」は生まれた時から情報ネイティブ（インターネット等）であり選択ネイティブ（Youtubeなど）なため、理由がない事は絶対にやらないし、有益な事はやる世代なそうです。この世代とコミュニケーションを取るためには、大人は常に学び続け、情報を整理して伝える事がポイントになるとの事でした。（勉強し続けずサボると見下されるとも、、、）若い世代とコミュニケーションが苦手な方も多いと思いますが、大人としての対応が問われる時代になってきたと痛感致しました。

テーマ⑦では優勝という成功体験とは比較しないようにし、過去にしがみつかないように進んでいくと力強く語られました。

最後のテーマ⑧では一問一答との事で、活発な質問もあり、ある女性の方から采配に対するスポーツ新聞記者顔負けの質問もあり、タジタジの須江監督が印象的でした。

本日の講演を拝聴し、須江監督の人柄、人を育てる力がよくわかる和やかな講演であると共に、会社組織を運営していく中で大きなヒントを頂いた、そんな講演でした。



熱心に聞き入る聴講者

引き続き、行われた賀詞交歓会は、コロナ禍である事を考慮し3協会役員のみでの交歓会となりました。開会に際し、斜面防災対策技術協会東北支部の熊谷茂一支部長から挨拶と乾杯の発生をいただき宴席がスタートしました。

久々の再会に互いの近況を確認しあう姿や、地酒の差し入れが宴をさらに盛り上げました。更に講演頂いた、須江監督もご参加された事もあり、途中から記念撮影会場化した、大変盛り上った賀詞交歓会となり、新年の門出を祝いました。

締め括りは、全国さく井協会東北支部の坂本興平支部長より、3協会員及びそのご家族の健康と健勝を祈念した手締めを行い、盛会のうちにお開きとなりました。



須江監督と記念撮影